

鉄・SUS: 値上り状況継続

サンコーインダストリー(株)

1. 市況表 (国産一級品の月間国内平均市況です)

品名	サイズ・他		単価		前月比	傾向
線材	SWRCH	高炉 紐付	239,000	円/t	-	↑
線材	SCM	高炉 紐付	264,000	円/t	-	↑
スクラップ	国内屑	H2 炉前	50,000	円/t	-2,000	↓
	米国屑	C&F アジア	376	\$/t	+8	↓
棒鋼	SD295A	D16~25	105,000	円/t	-5,000	→
H形鋼	SS400	200X100	120,000	円/t	-	↑
コラム	STKR	9X300X300	170,000	円/t	-	↑
特殊鋼丸棒	SC	φ 25~100	183,000	円/t	-	↑
冷延鋼板	SPCC	1.2X4X8	120,000	円/t	-	↑
高力ボルト		M20~22	410,000	円/t	-	↑
電気銅			2,380	円/kg	+20	→
アルミ地金			611	円/kg	-6	→
ニッケル		LME	16,766	\$/t	+109	→

2. トピックス

○価格転嫁の動き広がる

企業が原材料などを調達するコストが上昇を続けている。企業間取引の指標となる企業物価指数は6月、前年同月比で7.1%上昇。原材料やエネルギーの価格上昇分を製品価格に転嫁するのは、今や当たり前となり、あらゆる産業に価格転嫁の動きが広がっている。中小企業庁が6月に公表した調査結果によると、原材料費の転嫁率は約56%だが、エネルギー、労務費の転嫁率は50%前後に留まっている。特に問題となっているのは労務費で、公正取引委員会是指針として、労務費の価格転嫁を受け入れる取り組み方針の明確化を発注企業に求めている。

○亜鉛建値、銅建値、最高値を更新

国内亜鉛相場が最高値をまた更新した。三井金属は8月26日、指標となるロンドン金属取引所(LME)亜鉛相場が上昇したことを反映して8月積み亜鉛建値をトン72万7千円に改定した。7月末につけた従来高値の69万1千円を大きく上回り、初めて70万円を超えた。60万円を突破してわずか4カ月で次の大台に乗せたが、建材向けのめっきやダイカストの需要家では、価格転嫁が追いついていないようだ。また、JX金属は8月17日、海外銅相場の高騰を反映し、8月積み銅建値を最高値更新のトン242万円に改定したと発表した。銅建値は5月に初めて230万円を上回ったが、3カ月で次の節目に到達した。

○神鋼、追加5千円値上げ

神戸製鋼所は、線材・棒鋼と厚板、薄板の全鋼材品種の販売価格について10月出荷分からトン5千円以上引き上げると発表した。2026年は、3月に1万円以上、7月出荷分から5千円以上の値上げを実施したが、副資材や物流費など諸コストが想定を上回るペースで上昇し続けているため、再度の値上げを決めた。

○高炉大手の主原料調達価格、鉄鉱石9%安、原料炭2%高

高炉大手が調達する主原料の四半期価格が8月末に固まった。10-12月の鉄鉱石は7-9月比9%程度下落し、7-9月の原料炭は4-6月比2%ほど上昇した。中国の建設需要が低迷する中、鉄鉱石は調整が入り、原料炭は中国の炭鉱事故による影響で値上りしている。

3. ねじ等相場動向 ; 鉄・SUS: 値上り状況継続

○鉄: 材料およびエネルギーコストや運送費、労務費や副資材費等製造に関わる諸経費の上昇を要因に、ネジ製品の値上り状況が継続している。また、亜鉛の高騰による表面処理費用の上昇が懸念されている。

○SUS: 鉄製品と同様に、材料および諸経費の高騰を転嫁すべく、SUSネジ製品も値上り状況が継続している。